

2019年10月9日

2018年度のスチール缶リデュース率

1缶当たり7.29%(2.59g/缶)の軽量化を実現

- 2017年度実績(7.83%(2.78g/缶))と比較し、初めて前年対比マイナスとなりました。

<自主行動計画2020(第3次自主行動計画)概要>

- 基準年度: 2004年度、目標年度: 2020年度
- 目標「目標年度に、基準年度比重量8%の軽量化を目指す」
- 基準年度(2004年度)の1缶当たり重量: 35.50g

容器包装の素材に係るリサイクル八団体は、2005年12月に「3R推進団体連絡会」を結成、3R推進に向けた「事業者による自主行動計画」を策定し、2006年3月28日に公表しました。

これを受け、スチール缶製造の企業で構成する日本製缶協会は、2006年6月「スチール缶軽量化推進委員会」を立ち上げ、スチール缶の軽量化の取り組みを開始しました。

《スチール缶軽量化推進とリデュース率の概要》

- ・ 軽量化の研究・実用化はスチール缶全般を対象に推進。
- ・ リデュース率算出の対象は、生産数においてカバー率が85%前後を占める主要5缶型とする。
- ・ 主要5缶型: 160ml缶、200ml缶、250ml缶、280ml缶、350ml缶
- ・ 2018年度主要5缶型のカバー率は、90.8%
- ・ 集計調査は、第三者機関にて実施

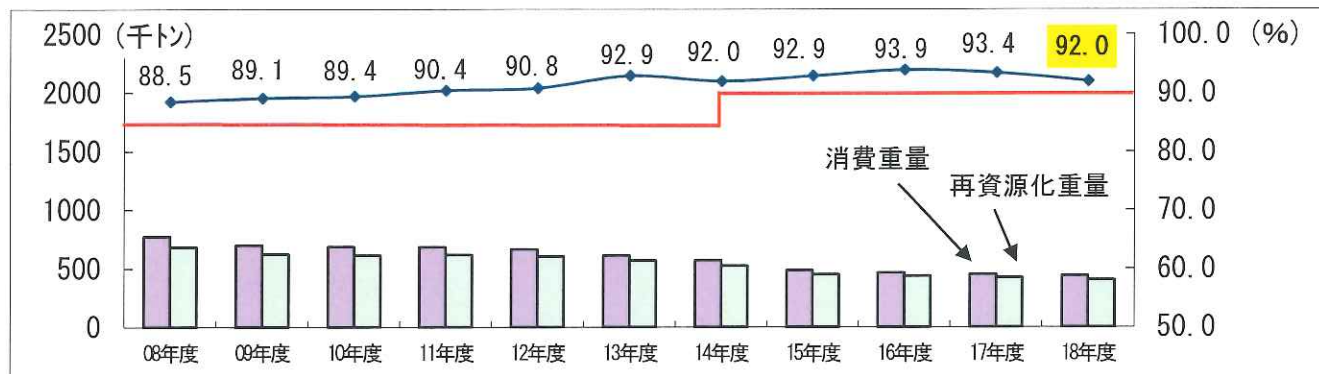
詳細については、本頁裏面の「スチール缶のリデュース(軽量化)に関する実績(2018年度)」をご参照ください。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 細田
電話: 03-5550-9431 FAX: 03-5550-9435
E-mail アドレス: recycle@steelcan.jp

2018年度のスチール缶リサイクル率は、92.0%

スチール缶消費重量 438,523 トンに対して再資源化重量 403,574 トンでした。



	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
消費重量(千トン)	772	699	685	682	664	611	571	486	463	451	439
再資源化重量(千トン)	683	623	612	617	603	567	525	451	435	422	404
リサイクル率(%)	88.5	89.1	89.4	90.4	90.8	92.9	92.0	92.9	93.9	93.4	92.0

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで3ヶ月かかると見做して、消費重量は2018年1～12月、回収・再資源化重量は2018年4月～2019年3月のデータにより算出しました。

$$\frac{\text{回収・再資源化重量}}{\text{消費重量}} = 92.0\%$$

$$\text{消費重量} = \text{出荷量} - \text{缶詰輸出量} + \text{缶詰輸入量} + \text{空缶輸入量}$$

$$\text{回収・再資源化重量} = \text{鉄鋼メーカー等購入量} - (\text{アルミ蓋重量} + \text{異物})$$

全国の電炉メーカー・高炉メーカー・鋳物メーカー・ペレットメーカー等にスチール缶スクラップ(Cプレス及びCシュレッダー)利用量に関するアンケート調査を実施、その回答を集計。

これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者において、スチール缶スクラップがシュレッダー処理後、Cシュレッダー以外の規格で再資源化し、製鋼原料として売却した量を集計(調査により把握できた量のみ計上)。

上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及び水分等の異物を除いて算出。

.....
 <本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 細田
 電話: 03-5550-9431 FAX: 03-5550-9435
 E-mail アドレス: recycle@steelcan.jp